

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

4月8日、61名の新1年生が入学式に臨み、多くの人に温かく迎えられ、在校生と一緒に「大きな栗の木の下で」を歌いました。立派に返事ができる1年生です。

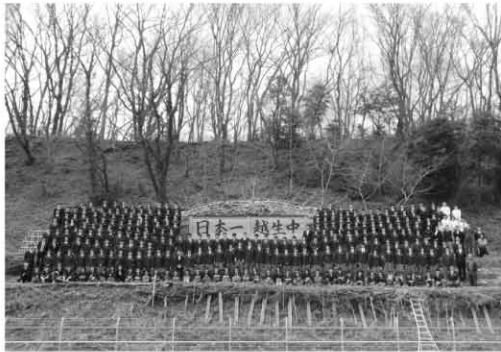
梅園小学校

入学式では17名の新入児童を迎え、全校児童63名で元気いっぱいにスタートしました。少し緊張した様子の1年生でしたが、6年生の代表児童の話聞く態度もとても立派でした。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



越生中学校

3月に松井前校長先生から「日本一越生中」の看板を寄贈いただきました。そして今年度、77名の新入生を迎え、254名の生徒と27名の教職員で越生中を日本一の学校にしていきたいと思います。

ズームイン教育261

新しい学習指導要領に対応するために

○新学習指導要領への準備

一昨年3月に新しい学習指導要領が示され、小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から実施されます。今年度は準備期間となります。学習指導要領とは、全国どの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に一度改訂され、これを基に子供たちの教科書や時間割が作られます。

○何が変わるのか

新たな教科が加わります。小学校では、昨年度から「特別の教科 道徳」が始まりましたが、「外国語活動（英語）」を3・4年生で、「外国語（英語）」を5・6年生で行うこととなります。

中学校では、今年度から「特

別の教科「道徳」が始まります。

また、授業時間が増えます。

小学校では「外国語活動」「外国語」の実施に伴い、3

～6年生で授業時間が35時間増えます。時間が

割が1時間増えることとなります。そこで越生町では、従来から行っている「二学期制」「土曜日授業」により、時間割を増やすことなく、行事を減らすことなく、授業時間を確保することができました。

○英語検定料助成の拡充

越生町では、英語に積極的に取り組んでもらおうと、昨年度から始めた英語検定料助成を小学校3年生からに拡充します。

越生中学校を会場として行う「英検」の受検料を小学校3年生から中学校3年生を対象に、年1回分、半額を補助します。

学習指導要領で定める授業時間

	小3	小4	小5	小6
現行	945	980	980	980
新	980	1015	1015	1015
差	+35	+35	+35	+35

越生浪漫

No. 124

越生人物往来② 渋沢栄一と越生



渋沢栄一銅像（深谷市 渋沢栄一記念館）

新1万円紙幣の肖像画に決定した渋沢栄一は、少なくとも3回以上、越生に來訪しています◆安政5年(1858)3月、満18歳の栄一は、血洗島村(現深谷市)の自宅から江戸へ向かう途中に立ち寄りた越生のことを紀行文「南遊季候」に、こう記しています。「十七日美晴、四山無点雲、出駅半里、到千手堂村、過村又二里、到越生町、時日已向午、薰風吹顔、春色粲然、投于太田屋簷——【大意】十七日美晴、一点の雲もなし。



新井蘇生堂薬局「青淵・渋沢栄一翁お立ち寄りの店」解説板（河原町）

(菅谷を出て)半里で千手堂村に到り、また二里で越生町に到ると、すでに昼近い。薰風が顔をなげ、春色燦然である。太田屋で食事をとる。太田屋は現在の新井蘇生堂薬局で、当時は料亭(うなぎ屋)を営んでいました◆上野一区の伊藤正家の墓所にある先代伊藤敏男氏が建立した「伊藤家略歴」には、「伊藤家は農業の傍ら、東の紺屋と称し藍染業を三代にわたり営み、江戸後期倉次郎代に、藍染原料藍玉を商いに、深谷宿より後の明治の英傑渋沢栄一氏が若き日度々來訪し宿泊した」とあります◆栄一は、明治時代に2度來町し、日記に記録も



(毛呂山町歴史民俗資料館提供)

左：明治45年4月14日、越生尋常高等小学校での講演会



右：明治32年6月24日に渋沢栄一が宿泊した「金子家住宅」

遺しています。1度目は明治32年6月24日、尾高惇忠(栄一の従兄・渋沢平九郎の兄)と連れ立って、振武軍が本営とした飯能の能仁寺に詣でた後、越生入りして島野伊右衛



明治45年4月14日、渋沢平九郎自決の地を訪れた渋沢栄一行（現地解説板より・渋沢史料館所蔵）

門宅(現金子家住宅・国登録有形文化財)に投宿、翌日は黒山に渋沢平九郎自決の地を訪れ、全洞院で法要を行いました◆明治45年4月14日には、埼玉県入間郡銀行会の招きで來講し、講演終了後は黒山に平九郎を弔い、樋口吉平宅(本町)に一泊しました◆栄一は、同年6月15日に慶應義塾大学で開催された「現時の経済状態」と題した講演会で、越生を引き合いに出しています。「——既に先々月か私は埼玉県の人間ですが越生と云ふ所に参りて見ましたけれども、子供の時分に住んで居た所である其越生と云ふ町の有様を



明治45年4月14日、全洞院に渋沢平九郎の墓を詣でた渋沢栄一行（現地解説板より・渋沢史料館所蔵）

見ると維新後に多少の進みがある——(講演録より)。音声起こしのため、傍点箇所が不自然ですが、若い頃から、越生のことを良く知っている栄一の様子が窺えます◆栄一の妻千代の弟で、従弟でもある渋沢(旧姓尾高)平九郎は、渡仏する栄一の養子となりました。慶応4年(1868)5月23日、平九郎は彰義隊から分かれた振武軍に参加して飯能戦争を戦い、敗走の途中、二十歳で非業の最期を遂げました。栄一は終生平九郎を追懐し続けました◆渋沢栄一翁にとって、愛する肉親の終焉の地越生は、特別な思い入れのある土地であったことは間違いないでしょう。